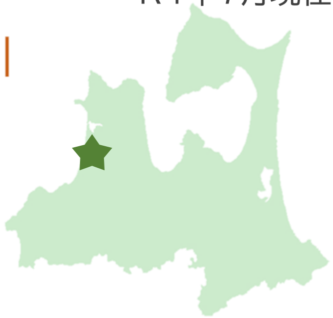
第50回（令和3年度）全国豆類経営改善共励会 大豆家族経営の部 農林水産大臣賞　　R4年7月現在

高い技術を持ち、地域のリーダーとして大豆生産を牽引

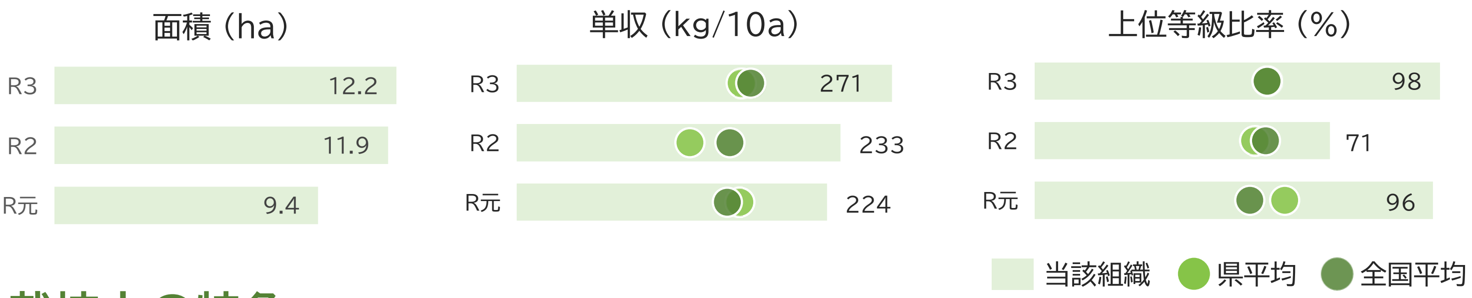
野呂 修聖 氏

青森県つがる市



基幹作物	大豆12ha（おおすず7haほか3品種）、水稲12ha（R3）
特　徴	水稲を省力化して大豆の生産拡大に取り組む。土づくり、圃場づくりに力を入れて多収・高品質生産を実現。地域のリーダーとして地域の大豆生産を牽引。

大豆生産状況



栽培上の特色

- 早晩性の異なる品種の作付け及び晩播狭畦栽培の導入によって作業分散を図り、安定生産を実現。
- 天候の影響を受けにくい生産を実践するため、土壌診断や圃場条件、前年の生育状況を考慮した土壌改良資材と肥料の施用、籾殻暗渠等の排水設備の点検・修復を欠かさない。また、堆肥化した稲わらやくず大豆等によって土づくりを行っている。
- 圃場準備として、スタブルカルチ→アッパーロータリで耕起することで、下層は荒く、上層は細かい2層状に仕上げ、播種床を均一にしている。

経営上の特色

- 水稲・大豆を基幹とし、特に大豆を経営の柱としている。大豆の規模拡大のため、水稲の省力化に取り組んでいる（無代かき栽培、乾田直播栽培、鉄コーティング湛水直播栽培など）。
- 水稲・大豆・ブロッコリーによるブロックローテーションを基本とするが、水稲・大豆の作付け圃場は、春先の圃場の状況に応じて柔軟に決めている。また、ブロッコリー作後に大豆を晩播栽培することで農地を有効活用。
- 4Hクラブ、県青年農業士を経て、平成26年からJAごしょつがる大豆部会長、平成27年から農業経営士として活動。栽培講習会や視察研修を企画提案し、地域の大豆栽培の底上げを図っている。
- 作業効率化のため30a区画の圃場を1ha規模に大区画化。
- 機械の稼働率向上のため、JA大豆部会員の作業受託に取り組む。

野呂さんとの
意見交換の内容を
公開しています

販売・消費拡大への取組

- 平成5年（親の代）から、埼玉県の問屋と青大豆を契約栽培。
「ひたし豆」として新潟県で販売される。野呂氏の青大豆は色が濃く、添加物が不要と定評あり。